

N-1 石巻市牡鹿町新山浜地区 2011年12月14日(水)

報告者名	山口未花子	被調査者生年	① 1950年(男)、② 57才(女)
調査者名	山口未花子	被調査者属性	① 区長、漁師、② 話者①の妻、主婦
補助調査者	兼城 糸絵		

震災前の行事の内容と保存会等の無形民俗文化財の実施組織の構成と地域社会の実態

正月：鏡餅を作る。それも家の分と船の神様（お舟玉）の分とそれぞれ作る。そして、それを盆の上に載せて神社へ行って礼をする。これは男性が行う。

獅子舞も正月に行われるもの。一昨年まではコミュニティセンターでやっていたが今年は浜に2人しか若者（男性）がいない。だから多分無理だろう。舞い手は男性が担う。先頭を中学生が歩き（その役割をシシハヤシという）、その後ろに獅子がついてくる。その役目は村の子どもたちの中にも必然的に刷り込まれているようで「中学生になるとするものだ」と考えているようだった。だから、何も言わずとも参加していた。ある時、片親の子がそれに参加しようとして、話者①の上の世代（80代ぐらい？）の者がそれに反対した。なぜなら、目出度い獅子舞の舞手として片親の子はふさわしくないといわれているから。でも、そんな考え方は古い、といって区長の権限で説得して参加させた。昔獅子が集落を練り歩く際に、シシハヤシの子供たちは、サカゴといって各戸をまわりみかんやらお菓子やらを子どもたちがもらっていった。最近はコミュニティセンターで一括して獅子舞を踊るだけになったが、袋にお菓子を詰めたものを用意しておき、子供たちに配る。普段は獅子舞の装束や太鼓などの道具はセンターに仕舞われている。

2月9日：「人形様」という疫病を払う行事が行われる。これが唯一浜の人間や浜に昔住んでいた人間が全員そろって参加する、この浜（新山）で一番大きな行事といえる。

区長と氏子総代（60歳以上の者から構成される）、総代の中から選ばれる総代長が中心になって祭りを取り仕切っている。人形様は藁で作られた巨大な藁人形である。作る時は集落の皆が協力してつくる。そしてこの藁人形に紙に書かれた「人形様の顔」を貼りつける。顔は本来年ごとに墨で書いて貼っていたが、最近では自分で書ける人が減り、それがどういうものだったか忘れないように今ではコピーをとって区長が保管している。大体A3サイズの神に鬼のような強面の顔が描かれている。

祭りの当日、各家庭ではそれぞれ家族（世帯を共にしていない子供や孫の分も作る人が多い）の数の団子と人形様の分の団子を1つ作り、それをすべて1本の茅にさしていく。茅は団子をさせるくらい強いものを選ぶ。そして、できあがった団子の串を人形様の頭部に刺す。団子を人形様に刺す前に、家族の体の悪い部分（目が悪い人は人形様の目のところ）の上でぐるぐる回すようにする。そうすると、人形様が悪いものを引き受けて持って行ってくれるのだという。人形様は浜のところにもっていかれるが、本当はそこでダンゴを捨てた方がいいのだが、持って帰ってくる者がいる。持って帰ってきててもねえ、そこに病気なんかがついているように思うがもっ

たいないのだろう。

団子は基本的に無味で団子粉を使用して作る。最近ではヨモギ粉などを使う人もいる。

2月28日：ムラザカイ（村栄え）をする。60歳以上の男性が神社へ参拝する。この際には神主など呼ばずに自分たちだけで行う。村が栄えるように、という意味ではないかという。

10月27日：神社にて行われる火の神さまの祭がある。大体1週間ほど前に集まって準備を行う。定められた「火を燃やす場所」に木を人の高さぐらいまで組んでいく。よく燃えるよう生木は避け重ねる際も火がよく燃えるように重ねていく。祭りを取り仕切るのは氏子総代である。当日は、キュウブン（給分浜のことか）から神主さんと呼び、組み上げた木に火を付け、火の神にお祈りをする。当日はセンターに皆で集まって宴会をする（カラオケなども）。火は一晩中燃えるが、あまり長い時は早く燃えてしまうようにする。

・新山浜における信仰と実践

お舟玉：舟玉様と呼ぶところもあるがこの地区ではお舟玉と呼ぶ。お舟玉は舟を作った時に、ご祈祷してもらい、小銭などを御神体として舟にお舟玉を入れる。

祖父が作ったお盆に、お舟玉へのお供えをする。（漁のある時は）毎日。お供えとして、椀にはごはんを、とっくりには神酒を、アワビの殻にはおかずをそれぞれ盛りつけ箸も一膳のせる。ごはんは山にして盛らなければならない。いつも、父が押し立てでも山盛りにせよと言っていた。それと神酒と一緒に載せて、船まで行ってお舟玉へ礼をする。舟でお舟玉に少しお供えをあげて、残りの徳利のお酒は自分で飲む。最近ではわざわざ浜まで膳を持っていかないで、家の中から浜の方向に向かって礼をするだけで済ませることもある。お祝い事があると「おふかし（赤飯）」を作るがこれもお舟様の分も作って供える。正月にもおもちをついたらお舟玉の分も作る。

神社：浜には手を合わせる場所（＝鳥居）が3つあるという。これは神社の数を指していると思われる。その神社とは「浜の宮さま」（オマザキ?）、「八鳴（ヤナギ? ヤナキ?）神社」、「神明宮」である。以前は朝晩浜へ行って3つの鳥居に3回手を合わせていた。（漁期の間だけ?）「浜の宮さま」にはナミキリ地蔵（?）がおり、移動する船がここを通る時は、船を泊めて航海安全を祈って御神酒などを捧げたりする。

寺：新山浜の人は陽山寺の檀家。

七福神信仰：七福神の中でも大黒様を祭っている（家の神棚等?）漁の神様だから。

・社会組織

現在集落の人口は80人ぐらいだが、実際には住所だけ新山浜において他所（例えば鮎川など）で生活している人も多く、実際暮らしているのは50人弱ほど。特に、小学生や中学生が少なく、今では中学生も2人しかいない。昔は……老人会、婦人会、実業団（青年団?）があったが今はない。それらがあつたころには、総会は2月に行われていた。

区長：1期2年で、現在は2期目（3年目）。副区長もおり、次の区長はその副区長になる。

氏子総代：新山の人々は神社の氏子であり、60才以上（男性）になると氏子総代となる。現在総代は8人。そのうちの1人が総代長。祭を取り仕切ったりする。

・生業

ほとんどは漁業者で、1軒だけ林業に携わっている。ただし漁の形態はさまざま。捕鯨、大型、刺し網など。自分はタコなどの刺し網漁。小型、といっても20トンクラスの舟を持っていた。

早いものでも漁期が始まるのは3月1日から。漁業従事者は大体2月は仕事がないので、この時期に行事が多いのだろう。

彼らが震災で受けた被害、影響および、震災後の被害状況と今後の展望

・被災状況

地盤が関係しているのか、新山地区での震災での家屋に対する被害はそれほど大きくはなかった。家もガラス戸が落ちただけで、他は特に落ちていたり割れたりということはなく、倒壊も1軒だけ。半壊になった宿が1軒移転した。

ただし津波で舟が全部流されたのと港が地盤沈下で浸水してしまって、船を泊めることができない。海にもガレキがあるし、丘にもガレキがある状態。さらに、その後に来た台風の被害が大きかった。皆パニック状態になり、避難しようにもできないから家にいるしかなかった。車が5台も6台も流されていった。また、道がふさがれて、しばらく車で通行が出来なくなった。震災後は漁が出来なくなったのでがれき処理の仕事をしている。唯一お金がもらえる仕事。自分たちが携われるのは海のがれき処理で、陸のはそれ専門にやる人がいる。近頃海のがれきも減ってきた。舟がどこかからもらえるという話もあるが、自分たちには待つことしかできない。震災(台風)後は浜の人口もだいぶ減った。

・年中行事への影響

人形様は今年もやる予定。しかし、火の神様のお祭りは今年は行われなかった。台風で火を焚く場所が埋まってしまったから。獅子舞もいまのところやる予定はない。